



今回は**骨粗鬆症**の検査・診断について勉強していきましょう

骨粗鬆症の検査っていつ受ける？

骨粗鬆症は骨折するまでは、痛みなどの症状もなくひそやかに進行する**自覚症状があらわれにくい**病気なので、実際に治療されているのはその一部にしか過ぎません。

骨粗鬆症を出来るだけ**早期に診断**し、適切な治療を行い、最初の骨折を予防する事がとても重要といえます。骨粗鬆症の患者さんは特に女性に多く、**50歳以上では4人に1人**と報告されています。

女性の場合は、骨量が減少しはじめる**40歳**くらいから定期的に検査を受けましょう。**閉経後**は原則として**1年に1回ずつ**測定するとよいでしょう。骨量は**20代から30代後半**まであまり変化しないので、できればその間に一度測定をして、自分の若いときの骨量を知っておくと、老年期になってから検査を受ける時に役に立ちます。

男性の場合「男だから骨は丈夫」と油断は禁物です!!

糖尿病・高血圧・動脈硬化などの生活習慣病があると、骨粗鬆症が起こりやすくなります。

特に**糖尿病**があると、骨量が多くても**骨質が低下して**重症化する傾向があります。

胃潰瘍や胃がんなどの病気で、胃の切除手術を受けた人も注意が必要です。食べる量が減ってカルシウムやビタミンDが不足しやすい

だけでなく、胃酸が十分に分泌されないために、

カルシウムやビタミンDの吸収が悪くなります。

男性は**65歳**になったら、一度検査を受けてみましょう。

50歳を過ぎると、女性は急速に増加



※「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 作成委員会」2006年版より



骨粗鬆症の検査って？

骨密度の測定

骨密度とは、骨の強さを判定するための尺度の1つです。

骨密度の測定法には次のようなものがあります。どの検査も痛みはともないません。

DXA (テキサ) 法



微量のX線を利用して骨のミネラル量を測る方法で、全身の骨密度が測定できます。

腰の骨(腰椎)や太もものつけ根(大腿骨近位部)の骨密度を正確に計測できます。

所要時間5分～10分程度

MD (エムティ) 法



X線を使って、手の骨と厚さの異なるアルミニウム板とを同時に撮影し、骨とアルミニウムの濃度を比べることによって測定します。

所要時間10秒～2分程度

超音波法



かかとやすねの骨に超音波をあてて測定します。

所要時間5分程度

尿・血液検査

骨の代謝のバランス(骨の破壊と形成の様子)や、ビタミンKの不足状態などを、尿や血液で検査します



レントゲン検査

骨が折れたり、つぶれたり、変形していないか、あるいは折れやすい状態かどうかを調べたり、他の病気と区別するためにレントゲン検査が行われます。



有限会社 せがわ薬局

石川県七尾市鍛冶町50番地

TEL 53-0810 FAX 53-3557

<http://www.segawa-pharmacy.com/>

文責：林 美樹